筑紫丘高校女子卒業生（丘女）の活動を定期的に紹介する広報紙

OKAME STYLE VOL.2

丘女会会報
「OKAME STYLE」
第２号
平成 30 年６月発行
編集　丘女会広報部
TEL：092-561-0662

自動車研究職から医者へ ～女性だからこそできた大脱出

医療法人たかやま内科医院　理事長
38回生　**雨宮直子**さん

＜Profile＞
高 38 回生
九州大学医学部大学院卒業

1991 年　東京工業大学　卒業
1993 年　いすゞ自動車研究所退職
1994 年　東京医科歯科大学　入学
2000 年　東京医科歯科大学病院　内科入局
2003 年　九州大学病院　心療内科入局
2009 年　九州大学医学部大学院　卒業
2014 年　医療法人　たかやま内科医院
理事長就任

反抗期だった高校時代

実家が開業医だったこともあって、親も「当然医者になるもの」と思っていたようでした。最初は「医者にならなきゃ」と思っていましたが、「親の思うようになんかなるものか」という気持ちが芽生えて、なんでもいいから東京に行きたい、そんな気持ちで受験期を迎えました。親からは「医者にならないなら国立でないとダメ」と言われ、一生懸命探したのが東京工業大学。生産機械工学科へ入学した、私が最初の女子学生でした。

何もかも初めてで
知らない事を知る事が楽しかった。

東京工業大学～いすゞ自動車研究所へ

ねじをどっちに回したら締まるかも知らないのに、自動車部に入りました。今まで全く経験したことがないことばかりで楽しかったです。就職は男女雇用機会均等法ができて企業も女性の研究職を雇用する時代でした。あまり大きい会社はむいていないと思ったので、いすゞ自動車研究所という会社に就職。トラックの板バネの研究で、技師さんと一緒にトラックに乗って、毎日延々と走り続けデータを取って戻って、解析し「精密機械を安全に運ぶため、運転手の乗り心地をよくするためのいい板バネを追求する」仕事でした。

医者を目指すきっかけは？

１年半経ったときに「辞めようかな？」と思う出来事がありました。同じ部署に会社に来たら、トイレに閉じこもる男性がいたんです。子どもの頃から医者だった父の仕事を見ていたから「こういう所で診てもらったらいいんじゃないかな？」と思って、それが医者になる最初のきっかけでした。

働きながら、結婚して、
子どもを育てたい。「開業医」だったら
子どものそばで仕事ができる。

退職し、受験勉強して、東京医科歯科大学に入学。研究所を辞めてから医科歯科大学に行くまでがきつかったかな。研究職の時は、働きながら結婚して、子どもを産み育てるという想像ができなかったけれど、「開業医」だったら子どものそばで仕事ができる。自分の家庭環境と女性だからこそできた大脱出だったかもしれません。

誰かのお世話になって、
勉強させてもらったから、
活かし続けないと。

東京医科歯科大学入試面接で「君は東工大を出ているけれど、国立大学に２つも行って、税金の無駄使いとは思わないのか？」と言われて、「無駄使いにならにようにします」と答えました。今でも「誰かのお世話になって勉強したんだから、辞めちゃいけないよね、色んな形で社会の役に立てるようにがんばっていこう」と思っています。

別居での結婚生活スタート

東工大の自動車部の先輩と医学部在学中に結婚しました。すでに彼は就職して勤務地が岡山だったので、最初は同居していません。卒業後は医科歯科大学病院の内科に入局しました。その後福岡に戻って九州大学病院心療内科。それから妊娠し、出産後は大学院に入学。九大の中には認可保育園があって授業の合間におっぱいあげながら通いました。

院を卒業して、ようやく夫の赴任先の茨城に行きました。社宅の横が病院で、夜は自宅で当直。専門なんて関係なく、なんでも診察していました。子どもがまだ起きている時間に「そろそろ（患者が）亡くなりそうだから先生来てください」と看護師から言われた時は、ナースステーションに４歳の娘を連れて「ちょっと待っててね」と話して、看取りをして帰る。たくさんの経験をしました。

女性外来と心療内科、
大変なことを頑張っている人を
支えたい。

今のお仕事は？

３年前に父から今の医院を継承して院長として働いています。内科、胃腸内科、心療内科に加え「女性外来」の診療も加わりました。女性の話を一生懸命聴いて、治療に結びつけるよう心がけています。若いお母さんたちが多く、「自分はみんなと同じようにできない、家事、子育てが人より劣っている。」という悩みを持って具合が悪くなる人の診察をすることが多くなりました。「自分は自分」とわりきって考えられると、楽になるんだろうなと思いますが、女性外来も心療内科も答えを教えることはしません。話を聴いて「自分で答えを見つける」方向で種まきをする。いつか芽がでて、実を結ぶのを待つ作業をしています。女性が社会の中で生きて行くことは、男性より大変なことが多いのは間違いないと思います。女性外来も心療内科もそういう頑張っている人たちを支えて行くことを続けていきたいですね。「どんな人でも来ていいよ」と言ってあげられる、町のお医者さんが目標です。

高校生にメッセージを

どんな形でもいいから、社会と繋がっていることを続けて欲しいです。それは、仕事でもいいし、ボランティアでもいい、自分の身の回りだけに満足しないで、繋がりさえしていれば、自分が役に立つことは必ずあります。社会との関わりは失わないで欲しいと思います。

過去は変えられないから 未来を変える、未来をつくる

ＪＲ九州リテール（株）執行役員
48回生　鐘ヶ江理恵さん

今の仕事は？

JR 九州の財務部の課長として、資金の調達と運用を担当しています。また、6 月からは小売のグループ会社に出向し、お土産物や化粧品、雑貨等の店舗を 50 店弱経営する立場になります。財務や経営企画といった管理部門が長かったので、自分の判断の答えがすぐに結果として見える事業部門、いわゆるビジネスの第一線で仕事ができることにワクワクしています。色々な立場で仕事ができるというのがサラリーマンのメリットですね。

高校時代は？

高校時代はとにかく楽しかった。バトミントン部でしたが、家が遠くて、2 年生の途中からは時間に都合がつく茶道をしました。運動会、文化祭では衣装やダンスの係とかしました。進路は数学が好きだったので経済学部に。外に出たくて、横浜国立や神戸とかを受けようと思ってました。でもセンター試験、得意の数学で芋づるで間違えて大失敗。「二次試験重視の九大は？」と先生から言われて、九大の経済に合格しました。

＜Profile＞
高 48 回生
九州大学経済学部経営学科卒業

1997 年　九州旅客鉄道株式会社入社
1998 年　経理部資金課
2005 年　グループ会社出向
2010 年　JR 九州経営企画部
2012 年　経営企画部副課長（管理職登用）
2014 年　経営企画部担当課長
2015 年　財務部資金課長
2018 年　JR 九州リテール株式会社執行役員

大学生活と就職活動は？

4 年間、社会勉強です。家庭教師して、車買って、海外旅行して…。建設コンサルタントでのアルバイトは塗り絵みたいな仕事で、今の会社で使う専門用語を覚えられたので、やっていてよかったです。

就職はバブルがはじけて超氷河期。高校でも大学でも遊んだので、これはまずい、と 3 年生 10 月から早めに活動をスタートしました。資料請求ハガキを 200 枚位出して、興味を持って働けるところは身近なところ、と 40 社位に応募。2 社から内定貰って、いろいろ考えて九州に残れるＪＲ九州にしました。その時、面談してくれたのが、今、営業部長をしているすごく素敵な女性です。彼女のイメージで「楽しそう！私も一緒にやっていけたらいいな」と思いました。

恵まれた人との出会い。「頑張って」と後押ししてくれる人たちに感謝。

入社してからは？

2 か月位は研修センターで、その後、久留米駅で 10 か月位改札業務。それからは財務畑を長くやってグループ会社に出向したり、経営企画部で新規事業を担当したりしました。

入社したのは、民営化して間もない頃で、女性には責任ある仕事をさせない、という風潮があったけれど、昔の電話交換手さんとか母親くらいの女性たちがいて「この子たちは違う」と後押ししてくれた。今だに感謝しています。現場にも「あんたたちは今からの人」と可愛がってくれる人がいました。

子どもを産んで、続けて、管理職に

仕事で大変だったことは？

26 歳で第一子を産んだ時、一旦辞めようかと思ったけれど「だめだったら辞めたらいいじゃない？」と言われました。保育園に、泣き叫ぶわが子を置いていく。簡単に辞めると、子どもに申し訳ない、ちゃんと仕事しなきゃと。復帰した時の男性の上司は「女性が活躍しないといけないよ」という人で、チームでやるプロジェクトで私を外しませんでした。そこで仕事を一つ完結するというやりがいを見出せたんです。子育て中だから…と外されると、今はなかったと思います。その上司がずっと目をかけてくれたので、うまく回り続けたのかな。

子どもを産んで続けていたのがよかったのかもしれません。第二子を 35 歳で出産して 36 歳で戻って、1 年半、38 歳で管理職になりましたが、上司がすごいスピードであげてくれて産休期間を追いつかせてくれました。すごく感謝しています。

周りには高齢出産も多いけど、若い人には「早く産んだ方がいいよ」と言ってます。35 歳での出産はこんなに大変かと。早く産んで、体力あるうちに子育てと両立して、子どもが巣立って、よし仕事がんばるぞというのがいいと思う。

誰かの役に立っていたい、誰かが喜んでくれるから、止められないし、やり遂げられる。

子育て、介護のダブルケアに

下の子が小学校に上がる前、約 3 年間、母が闘病生活で、介護と子育てが一緒になりました。家事は夫にしてもらって、大川の病院に週 3 回通いました。仕事を 6 時に終わって姉と交代で車出し。子供は夫の両親や夫。当時は管理職になっていて、残業している部下とメールや電話でやり取りしました。

経営企画部の仕事はすごくやりがいがあって、新規事業が形になったときは「やれた」という感じがありました。楽しかったから、遅くまで働くことも苦じゃなかった。家でも仕事でも、やり遂げることで誰かが喜んでくれるから、途中で止められない。誰かに頼りにされたい、役に立っていたいと思っています。

高校生へのメッセージ

あの頃もっと勉強しておけば、あの時もう一方の道を選んでおけば、と思うことが私は幾度となくありました。皆さんも、これから先、きっと何度も後悔することがあるでしょう。そんな時は、過去はいくら悔やんでも変えられない。だったら未来を変える、未来をつくる！そんな気持ちで前を向いて進んでほしいと思います。

「紹介してほしい人」を募集します

OKAME STYLE は年 2 回の発行を予定しています。今後の紙面に取り上げてほしい卒業生をご紹介ください。自薦、他薦どちらでも構いません。「こんな素敵な人がいます」「この人の話が聞きたい」。多数のご推薦をお待ちしています。

広報委員長　　小川訓名（高 36 回生）
連絡先：同窓会事務局　　oka.dousoukai@gmail.com

いくつになっても働いて社会の中にいたい

福岡市役所　広報戦略課　課長
43回生　**大倉野良子**さん

＜Profile＞
高 43 回生
九州大学大学院統合新領域学府修士課程卒業

1995 年 福岡市役所下水道局
1997 年 博多区役所保護課
1999 年 総務企画局行政管理課
2002 年 市民局 NPO・ボランティア支援課
2005 年 こども未来局保育課
2008 年 早良区役所 納税課
2010 年 経済振興局雇用労働課
2013 年 総務企画局企画調整部
2014 年 市民局女性活躍推進担当課長
（管理職登用）
2015 年 市長室広報戦略課長

どんな高校時代でしたか？

自宅が筑紫丘高校に近く「近所だから行くんだろうな」と思っていました。公立高校の受験は教科書からの出題と聞いていたので、塾 には行かず受験しました。そうしたら入学後の最初のテストが散々で、数学とか問題の意味すら分からず「うわっ、がおかは難しい！」。でも気にせず、私のような者のためにある補習や朝課外も損した気分、模試すら受けたくないと先生に頼んでみるという始末の悪い生徒でした。運動会では、お針子が好きで 3 年間やりました。運動会のためというより、お針子が楽しくて。社会人になってからも、私より仕事ができるけど裁縫の苦手なママスタッフにお子さんの新学期ごとに雑巾を縫ってあげていたくらい裁縫好きで、役にも立っています。

公務員・
受かったので行ってみた。

進路、就職活動は？

「法学部は潰しがきく」「女子は自宅通いの現役が就職に有利」と言われ、九州大学法学部に入学。のん気に過ごしているうちバブルが崩壊していました。潰しや有利って何だったのかな、同級生の男子に来る求人が女子にはなかったです。それまでは男女の違いを感じたことはなかったけれど、初めて「こういうことかあ」と妙に納得しました。男女雇用機会均等法はあるし、女性も総合職に、という話も聞いていたので、これは景気のせいだ、景気が回復すれば企業の採用もあるんじゃないかと思って、大学院進学の手続きをしました。ところが、一つ下の弟は公務員試験の教材を買うし、同級生も公務員専門学校に通っていると聞いたので、1 ヵ月だけ弟から教材を借りて勉強し、福岡市役所だけ受けたら合格しました。ゼミの先生に「今は院より公務員のほうが合格しにくい、まずそっち（社会人）をやってみたら？」と言われ「じゃあそうしまーす」って。

10 課くらい異動したとありましたが

下水道局にはじまり、区役所で生活保護を担当して人事部へ。20 代で 4 カ所となる NPO 支援課への異動の後は、新しくできる部署で働くことが多くなりました。平均すると 1 部署 2 年。新しい部署は自分にとっても組織にとっても未知のことが多くて楽しいです。仕事はバラバラですが、働き続けてまちへの愛着がどんどん深くなります。正直、仕事が大好きですが、小さい出力で長時間続けるタイプではないので、休むときは派手に。

いっぱい動いて、
休むところは休む。
トラブルやクレームも前向きに。

「何かあったらいけないので」って言う方もいますが、WiFi で世界のどこからでも簡単につながりますから、1 週間いなくても罪悪感はほぼなし。スタッフは時差も気にせず連絡を入れてくれるので、久々に出勤して仕事山積みでドーンと落ち込むこともなく、いいと思います（笑）。スタッフにもできるだけ効率的に働いて、早く家に帰ったり休暇を取るように厳しく指導しています。短期留学した部下もいました。私も、勤め始めて 10 年くらいのとき、有給休暇が 1 時間単位でとれるようになり、この時間休制度を活用して昼間開講の大学院 に行きました。1 時間目の講義に出たあと出勤できるので。職場の理解と同級生の協力、私を面白いと思ってくれた先生方のおかげで順調に単位を取り、2 年で卒業しました。現在の広報戦略課は 4 年目に入ろう としています。ネット、紙、ニュースや広告を組み合わせて市政情報を発信しています。市長ですか？広報に関してとても詳しいので学ぶことが多いです。他に 15 年も放送局を経験した発信のプロはいません。（笑）

「脱出」というテーマについて

小学校の時に 4 つの学校に通いました。最初の転校は 2 年生。いじめもないのに 1 学期は学校に行きたくなくて不登校一歩手前。母が厳しくて通学はしましたけど、図書室で本を借りるためでした。たぶん自分だけに起きた環境の変化を受け入れられなかったのだと思います。でも、この小さいときに気難しく考えた経験が良かったです。環境は変わってしまうもの、こんなもの、逃げてもしょうがないと。周りのせいにしないで考えるようになったと思います。環境が変わるとそれまでの良い状態も嫌な状態も変わる、どこにいても適正な位置に自分の身を置くことができれば、いろんなダメージを防げるし、前向きにもなれることが分かりました。

仕事に対する考えは？

年や役職が下でも上でも出来る人についていくと良いと思います。いまは市民も職員も考え方が多様になっていて、昔の成功体験などはやや危険です。ネットのことは、携帯ショップでバイトをしていたスタッフがピカイチなので任せています。任せると勉強してもっと頑張ってくれます。スタッフの隠れたスキルも部内の電話のやり取りから聞こえてくる情報も、私にとっては貴重な武器です。この年齢になると、部下に任せて仕事の成果を出す場面が多くなるので、いろんな人と仕事をうまくやることが大事だなと思います。自分一人では全然できないことが、人と組むことで実現できるのは素晴らしいし、楽しいです。おばあさんになって、他の人が仕事とは思わないことでも、私が大切に感じて仕事だと思うことは、やっていきたいと思います。

「人」と仕事することは楽しい
任せられることは任せる。

高校生へのメッセージ

仕事で会う高校生はほんとに優秀です。自分が高校生のときよりいいこと言うし、すごいことをしてる。それだけ厳しく外に晒されている時代かもしれないけれど。昔に比べていまは学校の外の 社会と簡単につながることができるので、機会があったらやりたいことをやって欲しいです。そうしたら若くて純粋なうちに選択肢が増えて、もっと自分の能力が発見できると思います。

経験にマイナス無し
～人生に無駄なことはなにもない

歌人　31回生　松村由利子さん

経歴を聞かせてください

高校時代に所属していた音楽部(吹奏楽部)は、大晦日と三が日しか休みがないほど厳しい部でしたが、非常に熱中して３年間楽しく過ごしました。共通一次試験の第一期生ですが、受験は惨敗でした。一つだけ、親が進めてくれた東洋英和女学院の短大に合格。「遊んだんだから、受かったところに行きなさい」と言われて上京して寮生活。みんなが商社とかに就職していく中、四年制大学の編入試験を目指して勉強し、幸い西南学院大学の３年次に編入できました。

どうして新聞記者に？

大学４年の時、憧れで朝日新聞社を受けたんです。国語が得意だったので校閲専門記者。均等法前で女性の採用枠は一年に一人しかなかった。最終面接まで行ってダメだったのが悔しくて、もう一度受けたら受かるかも、と思いました。親に相談したら「留年はダメ、大学院に行くなら」。それで大学院に進み、その年の秋、もう一度受けて今度は採用されました。とても面白い職場でしたが、取材記者の仕事を見ているうちに、自分も取材して記事を書きたいと思うようになり、毎日新聞を受けなおして転職しました。

経験にマイナス無し。
どんな経験も自分を育ててくれる

毎日新聞社に入られたあとは？

当時、女性記者の地方勤務は短く、千葉支局で２年働いた後、東京本社勤務になりました。それから約２０年、生活家庭部や学芸部、科学環境部などを経験しました。最初に配属された生活家庭部はフィールドの広い部署で、女性の健康や医療を取材したことは、後に科学環境部に行った時に役立ちました。

若い頃は、自分の可能性って自分が一番わからないのかもしれない。自分はこういう人間だ、と思いこんでしまわず、自分の中にどんな自分があるかな、と腰を落ち着けてやっているうちになにかしら進歩、進化するものです。職場環境や交友関係、読書など、さまざまなものが成長の糧になるのだと思います。

経験にマイナス無し、という言葉が好きなんです。例えば、離婚や重い病気などは辛いことですが、経験して初めて見えてくるものがたくさんあります。

気持ちに正直に。何かを手に入れようとしたら何かを手放さなければならない

「脱出」の経験を聞かせてください

新聞社を辞めたことでしょうか。記者の仕事は大好きだったけれど、与謝野晶子など自分で書いてみたい文学関係のテーマも温めていました。ちょうど中間管理職に就いて、取材して記事を書く現場から離れたのを機に、退社を決断しました。何かを手に入れようとしたら別の何かを手放さなければならない、と思いました。４０歳を過ぎてから、自分の持ち時間が限られていることを意識するようになりました。短歌を始めたのは３０歳の頃ですが、仕事に忙殺されるなか、走りながら歌を作るような日々でした。もっと歌にきちんと向き合いたかった。この先は読みたい本しか読みたくないし、会いたい人にしか会いたくない。我儘になったというか、そういう気持ちでした。

高校時代が素地を育ててくれた

音楽部での日々が私を育ててくれたのだと思います。目立たないフルートパートで、自分ではおとなしい方だと思っていましたが、一つの曲の解釈を深めていく、そのためには厳しいことも言っていたようです。大勢の仲間との合奏は、いろんなことを学ばせてくれます。みんなで音楽を作る楽しさ、誇らしさを知ったことは、私の素地になっているかもしれません。

松村さんにとって仕事って？

人に喜んでもらい、自分も喜びを感じることではないかと思います。世の中には、お金に換算できない仕事がたくさんあります。病気の友達に手紙を書くとか親の介護とか。そんな「仕事」の大切さに、会社を辞めてから気がつきました。それに、今しかできないことってありますよね。定年退職したら親孝行しようと思っていても、間に合わないかもしれません。人生のなかで、一番大事なのは時間。人のために時間を使うことはどんな形でも貴いと思います。

＜Profile＞
高 31 回生
西南学院大学文学部卒業

1984 年　朝日新聞社入社（1985 年退社）
1986 年　毎日新聞社入社
2006 年　退社後、フリーランスに
2010 年　石垣市に転居
著書　『与謝野晶子』（中央公論新社）『31 文字のなかの科学』（NTT 出版）『少年少女のための文学全集があったころ』(人文書院)『短歌を詠む科学者たち』（春秋社）他
2018 年度　「NHK 短歌」選者
https://www4.nhk.or.jp/nhktanka/274/
「NHK 短歌」毎月、作品を募集しています。

仕事とは「喜び、人のために時間を使うこと、そして、成長すること」

これをすると損になる、と思って守りに入ると、かえって自分が空になっちゃう。出したほうが豊かになる。自分にとって本当に大事なこと、喜びを感じることは何だろう、と見つめることが大事です。例えば原稿を書くとき、締め切りぎりぎりまで推敲するのは、読者のためでもあるけれど自分のためでもあると思っています。

人生には、これだけやったらこれだけ返ってくる、と言えないこと、推し量れないこともいっぱい。けれども、やったことは決して無駄にはならない。そのときは評価されなくても、何かの形できっと自分に戻ってきます。

今後の夢は？

土日に近所の子どもたちにピアノを教えています。月謝はもらわず、時々、畑でとれたパイナップルをお礼にもらったりします。子どもは一人ひとり違うし、和声やリズムの教え方など、勉強するのがとても面白いんです。文章を書いたり翻訳したりする仕事に加えて、一つの挑戦として、ピアノを教え続けられたら嬉しいです。かつて自分が音楽部で育てられたように、音楽がいかに楽しくて、人生を豊かにしてくれるかということを子どもたちに伝えられたらと思います。

＜編集後記＞
今回も４名の卒業生をご紹介しました。創刊号では「転機」がテーマでしたが、第二号では「脱出」をテーマにお話を伺いました。人生には様々なことが待ち受けています。様々な「脱出」のエピソードが皆様の人生のヒントとなりましたら幸いです。
【制作】丘女会広報部：小川訓名（高 36）、太田由美子（高 32）、米澤一江（高 49）　デザイン：藤田明子（高 39）
※制作ボランティアスタッフを募集しています。興味のある方は広報スタッフもしくは事務局までご連絡ください。